

中国雲南省 ASEAN市場への青果物輸出を拡大

[FreshPlaza 2025年9月11日](#)

中国南西部の雲南省^{メンヘイ}孟海^{ジンライ}県景来村(中国ミャンマー国境)では、収穫されたばかりの野菜が「グリーンチャンネル」と呼ばれる青果物専用通関ルートを通じて国境を越え、近隣市場へと輸送されている。現地の生産者によると、中国産青果物に対するミャンマーからの需要は安定しているという。

近年、雲南省産の果実・野菜はASEAN市場で存在感を高めており、ブドウ、柑橘類、キノコ類等が主力の輸出品となっている。昆明税関によると、2025年上半期の雲南省のASEAN向け農産物貿易額は26億2千万ドルに達し、前年同期比で23.5%増加した。果実輸出額は同期間に44.3%の伸びを記録した。

中国農業科学院蔬菜花卉所(野菜花卉研究所)の張聖平副所長は、「雲南省の低緯度高原地帯は日照量が多く生物多様性にも恵まれており、熱帯果実と温帯果実の周年出荷が可能である」と説明する。雲南省の収穫物はASEAN諸国の生産サイクルを補完し、出荷量が不足する時期の供給を担っている。

同省は野菜の一大産地でもあり、南部の谷地では冬季に夏野菜を、高地では夏季に冬野菜を供給している。同省商務庁の王^{ワン}タオ氏は「これにより年間を通じた供給が可能となっている」と述べた。

物流面の整備も輸出拡大を後押ししている。中国・ラオス鉄道及び通関手続きの簡素化により、従来のトラック輸送に比べて輸送時間が短縮された。8月には「陸良野菜」(陸良県は曲靖市内の野菜産地)の冷蔵貨物列車が曲靖市からバンコク(タイ)へ青果物を輸送し、復路ではドリアン等の熱帯果実が中国へ運ばれた。別の冷蔵貨物列車では、400トンを超える野菜が同省玉溪市からタイへ3日間で輸送された。現在では鉄道・道路・海上輸送を組み合わせ合わせた複合輸送により、雲南省の産品はシンガポール等広域に供給されている。

中国・ラオス鉄道は「新国際陸海貿易回廊」及び「中欧班列(中国欧州貨物列車)」と連携しており、これらは中国国内の31の省級地域とラオス、タイ、ベトナム、インドネシア等19カ国を網羅している。紅河大友貿易有限公司の趙^{ジョ}ズーチー氏は、「蒙自市から輸出された柑橘類は、出荷当日にベトナムの消費者に届く」と言う。

政策面でも支援が進められている。8月には、雲南省が税務を改善し、茶、花き、コーヒー、キノコ、ナッツ等高地の産品の輸出拡大に向けた措置を導入した。9月には、新たな貿易モデルの促進、周辺国との協力、越境労働プログラムの推進を目指して「中国(雲南)自由貿易試験区」に関する新制度が施行された。

中国は依然として世界最大の果実生産国であり消費国である。地域的な包括的経済連携(RCEP)及び「一帯一路」構想の枠組みの下、雲南省は生産及び輸出の拠点としての役割を強化している。ASEANへの輸出と並行して、雲南省はタイ及びベトナムから果実を輸入しており、双方向の貿易回廊を構築している。

出典: 新華社

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 中国 ヨーロッパへの北極海航路を開設へ

[FreshPlaza 2025年9月11日](#)

中国は2025年9月20日に「中国-欧州北極エクスプレス」を開設する予定である。これはアジアと欧州を北極海航路経由で結ぶ初の定期コンテナ輸送サービスであり、スエズ運河経由で約35日を要していた輸送時間を18日に短縮する。海傑船務有限公司(香港)が運航し、アジアと英国、オランダ、ドイツ、ポーランドの港を結ぶ。初回航海は既に全量予約済みである。High North Newsによると、北極海の結氷のため当面は季節運航となる見込みだが、中国は2030年までに専用船を導入して通年運航を目指す計画を発表している。

北極エクスプレスは、中国がより迅速な貿易回廊の構築を目指す戦略を象徴するものである。ただし、環境面の制約、インフラの未整備、地政学的課題等が、この航路がどれだけ広く利用されるかに影響を与える可能性がある。スエズ運河は依然として、アジア、欧州、アフリカ間の貿易における主要動脈であるが、北極航路による代替短縮ルートの導入は、今後の世界的な海上輸送の在り方を変えるかもしれない。

出典: Logistics Update Africa

(記事の一部を省略しました。翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)